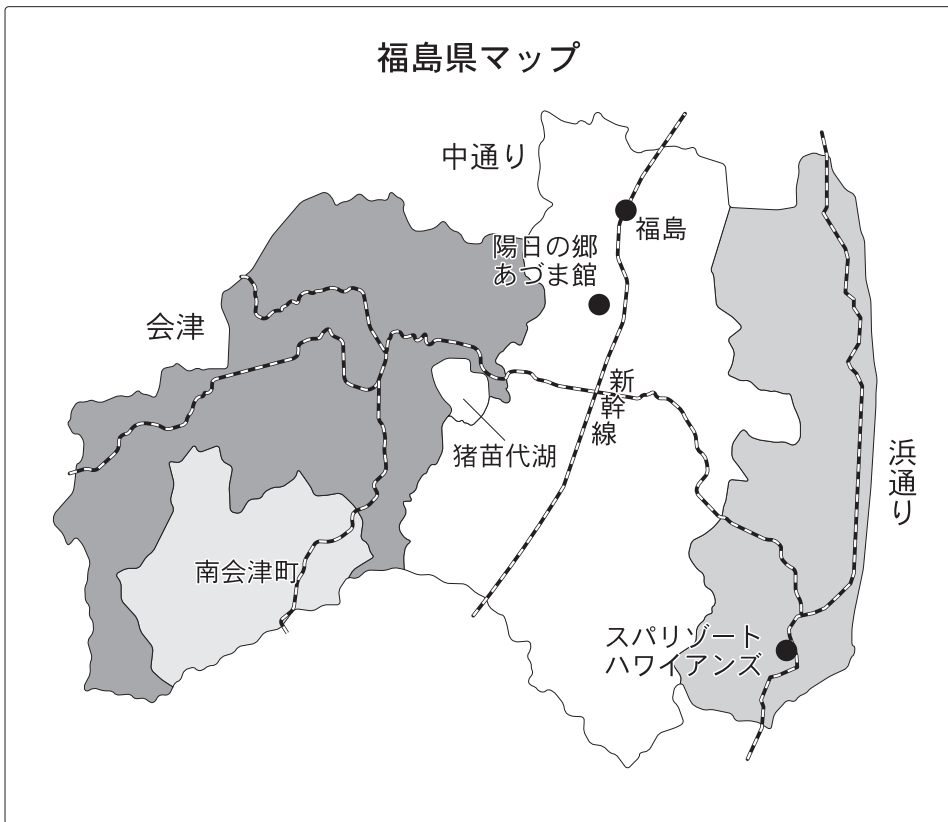
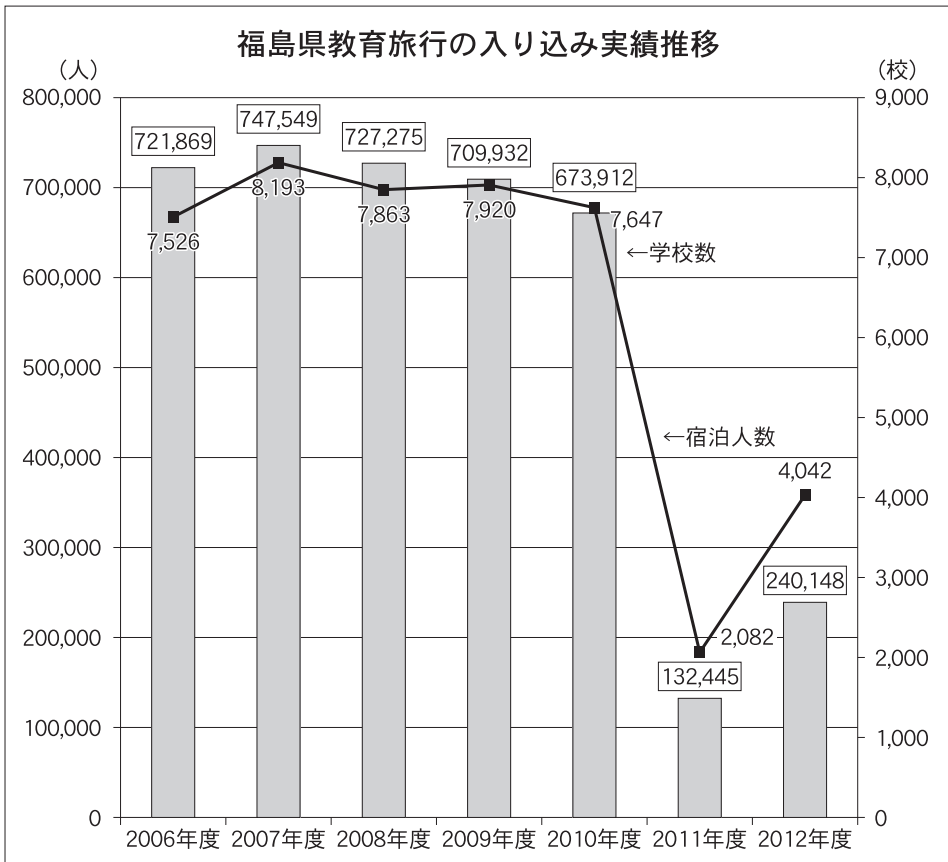


東北・福島応援企画 座談会



出席者の施設・地域紹介

陽日の郷あづま館



向田氏



佐藤氏

旅行会社に対する要望は、学校からすれば、農村生活体験は全国にあるのだが、なぜ福島のパッケージを出さずのか、というのが現状だと思ふ。営業の方は自分の成績にもかかわるわけだから、たぶん学校に出さない。そこをもし応援してもらえたら、ダメもとであってほしい。一回コースと見直しを出してほしい。そこになんか条件があると思う。1学年が300人、400人とか、10クラスとか。それを考えたときに受け入れ先は絞られてくる。その時に南会津は400人入ると出してもらいたい。そこから少し光明が出てくると思う。例えば首都圏であれば林間学校、野外活動だとか。スキーであれば西日本、九州がターゲットの軸になる。そういうところのキャパにぜひお声掛けをいただきたい。

鈴木 千年に一度の大震災が東北を襲いましたが、中でも福島は特殊です。あってはならない原発事故によって被災者があることを追われ、今も、そして今後何十年間も戻れないという現実がある。

原発の問題は現在も全然収まってはいません。にもかかわらず、それが年々風化している。これは福島だけに起こった問題なのだろうか。私は、そうではない、これは日本全体の問題と考へます。今、原発の再稼働の問題がありますが、私たち日本人は、この過ちを再度繰り返すのでしょうか。それはあまりに嘆かわしい。

学校の課題とリンクしたプログラムを 向田氏 福島を直視する社員研修を増やす 直江氏 九州、関西からのアクセス向上が課題 佐藤氏

旅行会社の方もお借りして、福島の抱えている問題を教育現場に伝えたい。そして、それを教育旅行として、これらの日本を支えている若い学生たちにしっかりと真正面からとらえるものにしてほしいと考へます。

酒井 震災があったのは確かだが、いつまでも震災だけを売っていくのかという議論がある。

佐藤 震災があったのは確かだが、いつまでも震災だけを売っていくのかという議論がある。



直江氏

それを今度、我々の方から提案させていたので、旅行会社の営業の方々はそういう情報を流してもらえればありがたい。

渡辺 誘致キャンペーンでも感じることもだが、福島県の安全性については旅行会社の方には、それから学校の先生にもある程度理解してもらっているが、保護者まではなかなか伝わらない。県では放射線について正しく理解してもらおうと学習本を作っているが、こういうのも学校関係者の手元に留めておくのではなく、保護者まで届けてい。その大きな課題として、ぜひアドバンスをいただける方が多い。

直江 要望はいろいろあるが、我々としての反省もある。日本全体を元気にしていくことが、平和産業としての我々の社会貢献につながる。カウンターを含めた社員全員が福島の素材と実態を理解できる現地研修をさらに増やして、偏った視点ではなく、直視をして、偏った視点ではなく、直視をした中で、一般のお客さまへの提案をもっとしていくことが必要に感じた。

併せて、教育旅行のセリスマンは北海道から沖縄まで全国にいるが、実は得手不得手がそれぞれあるから、復興支援を含めて福島のことをお客さま、あるいはPTAにきちんと直視をした目標で伝えて、子どもたちの成長の糧になるプログラムを作り上げる。この戦略を立てていきたい。そのへんの協同路線を今後とも深いつながりの中でつづけていければと思う。

佐藤 大きいのはアクセスの問題だ。移動しにくいとなかなか難しいと思う。高校修学旅行は九州、関西が一番のマーケットになる。これはダブルリンチでも、スキ、期も同じだ。たまたま九州も7県、東北も新潟を入れて7県、東北観光推進機構、九州観光推進機構、同じような組織を持っているので、県同士のコラボレーションを進めていってほしい。

福島から九州や関西へ、修学旅行に行っている例え、福島空港は、小型機が札幌便と大阪便しかない。それを県のコラボレーションの中で、九州や関西間でチャーター機や臨時便を飛ばすなりして、ダイレクトで福島に来やすくしてほしい。福島空港の活性化にもなる。それは我々旅行会社レベルでは難しいので、県の推進をお願いしたい。

放射線の問題は他県の子供たちと福島に住んでいる方々との話合いの場が増えることを期待する。

向田 これは我々も考へていかなければいけないことが、学校の課題や教育目標と向からのリンクをしたプログラムがあると売りやすいのは間違いない。

また、先ほどから出ている保護者への対応については、子どもに対する保護者の思いが今までよりも非常に強くなっている中で、福島の安全性と訪問する意義をきちんと言明しなくてはならない。

これは将来に向けての提案だが、日本の高校生が海外に行ったときには現地の人と交流を行うことが一般的になっている。これは日本の中でもできる話で、福島の生徒たちと首都圏から行く学校との交流についても模索してほしい。これは福島の子供たちにとっても、首都圏から行く子供たちにとっても大変意義のあることだと思う。

河上 福島県の高等学校のPTA連合会、それから小中学校の全日PTA連合会、PTAは年に一回大会を開いている。全国高等学校PTA連合会は1万人以上が来ている。高等学校の場合5、6月に全国の校長3500人ぐらいが東京に集結する。そういったところで福島をアピールしてはどうか。

もう一つ、福島が抱えている地球環境「原子力」の問題は、今の教育界において課題解決学習の大きなテーマになる。それから小中学生の総合的な学習の時間のテーマにもなりうる。そのプログラムを学校と観光協会でもって組んで、それを福島で学ぼうと、提示したらどうか。

福島県観光物産交流協会の渡辺さんから教育旅行の呼び掛けを。渡辺 福島県の一般観光については回復の兆しが出てきているが、教育旅行についてはまだまだ回復が遅れている。

今、県内関係者は、風評被害はもうるんだが、風化を心配している。学校では教育旅行を3年サイクルで方面変更する傾向があり、変更されると回復はなかなか厳しい状況にある。

福島県では、15年4月から6月までのデスティネーションキャンペーン開催に向け、前年のこの4月からは一層拍車がかかる。福島県でなければ学ぶことができない教育旅行の素材を生かし、ぜひ一度福島県に来ていただき。必ず生徒たちの学習効果の向上にもつながると思っている。福島県の子どもたちも元気に生活している。福島県の現状を実際に目に來てくださ

大自然と笑顔の町南会津へ。 笑顔と笑顔が出会う、温かい感動の物語。 南会津町ぼくらの農村感動体験



「農家民泊」
数人のグループで農家に宿泊。農作業に限らず料理作りなど生活全般の手伝いをしながら交流を深めます。受け入れにあたっての安全対策も万全です。

新規アクティビティ
「ラフティング体験」
南会津町には透明度が高い川がたくさんあり、都会の人には、その川を見て驚きます。自然を思う存分に生かしたラフティング体験を、ぜひ！

福島県南会津農村生活体験推進協議会

事務局 みなみや観光株式会社
〒967-0004 福島県南会津郡南会津町田島字後町甲3973-1 FAX 0241-62-7788 E-mail contact@minamiyama1.info
TEL 0241-62-2250 <http://www.minamiaizu.co.jp/>



福島県の教育旅行

絆を深める学びが、ここにあります。
教科書には載っていない本物の福島に会いに行こう!!
福島を知る・見る・感じるプランをご用意!!



お問い合わせは

福島県のワンストップ窓口

詳しくは
コチラ

ふくしま教育旅行

検索

県内にある体験プログラム受入団体の情報を一括管理し、ワンストップで先生方や旅行会社の方のお問い合わせや資料請求にお応えします。

TEL.024-525-4024 FAX.024-525-4087 E-mail tabiiku@tif.ne.jp

公益財団法人福島県観光物産交流協会 〒960-8053 福島県福島市三河南町1番20号(コラッセふくしま7階)